

「性能評価を踏まえた超高層建築物の構造設計実務  
—超高層・免震建築物の構造設計者が実際に行ってきた検討と判断を集大成—」

第 1 版第 1 刷 正誤表

本書に誤り等がありましたので、以下に訂正しお詫び申し上げます。

2020/7/27→赤字頁は 2022/3/3 (追加)

該当箇所		誤	正
頁	行等		
16	下から 8 行目	・・・, 25 cm/s, 50 cm/s と速度で規準化する。・・・	・・・, 25 cm/s, 50 cm/s と速度で基準化する。・・・
	下から 7 行目	・・・, これらを最大速度で規準化したものと, 最大加速度で規準化・・・	・・・, これらを最大速度で基準化したものと, 最大 加速度で基準化・・・
44	下から 4 行目	・・・外教材が破損しない・・・	・・・外装材が破損しない・・・
152	14 行目	記述される指針等	記述されて <u>いる</u> 指針等
156	21 行目	細粒 <u>度</u> 含有率	細粒 <u>分</u> 含有率
157	表 5.2-1 内	細粒 <u>土</u> 含有率 (3 か所)	細粒 <u>分</u> 含有率
168	7 行目	表 5.4- <u>2</u> 参照	表 5.4- <u>1</u> 参照
180	下から 4 行目	非線形 <u>性</u> 状態	非線形状態
183	下から 7 行目	<u>後</u> 者の方法では杭頭の慣性力と・・・	<u>前</u> 者の方法では杭頭の慣性力と・・・
191	3 行目	$K_{h0}$	$k_{h0}$
191	6 行目	= <u>130</u>	= <u>180</u>
191	下から 2 行目	杭体の <u>応力分布</u> および変形図を示す。	杭体の変形図を示す。
195	5 行目	$v$	$v_d$
256	下から 7 行目	<u>柱</u> 幅分	<u>有効</u> 幅分
334	下から 1 行目	式 (7.4-1) $\mu = C \cdot (N_f)^{\underline{\beta}}$	式 (7.4-1) $\mu = C \cdot (N_f)^{\underline{-\beta}}$

340	上から 13行目	(式 7.4-10) $\frac{b\mu_{\max}}{s\mu_{\max}}$	(式 7.4-10) *分母式の片カッコを削除 $\frac{b\mu_{\max}}{s\mu_{\max}}$																																																																																												
341	上から 2行目	・・・, ②を最大変形角とすると, <u>②-①</u> / ①が最大塑性率であり, ・・・	・・・, ⑤を最大変形角とすると, <u>⑤</u> /①が最大塑性率であり, ・・・																																																																																												
346	表 7.4-5	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">曲げモーメント</th> <th rowspan="2">設計用曲げ モーメント (補正值)</th> <th rowspan="2">全塑性 モーメント</th> <th rowspan="2">断面算定</th> </tr> <tr> <th>長期</th> <th>地震時</th> <th>上下動</th> <th>設計用</th> </tr> <tr> <th><math>M_L</math></th> <th><math>M_E</math></th> <th><math>M_V</math></th> <th><math>M_D</math></th> <th><math>M_D'</math></th> <th><math>M_P</math></th> <th><math>M_D'/M_P</math></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,891</td> <td>1,897</td> <td>1,357</td> <td>5,145</td> <td>→ 4,919</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td><math>\Delta M = 226 \text{ kN}\cdot\text{m}</math></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1,000</td> <td>-47</td> <td>718</td> <td>1,671</td> <td>→ 1,897</td> <td>4,680</td> <td>0.41</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td><math>226 \text{ kN}\cdot\text{m}</math></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	曲げモーメント				設計用曲げ モーメント (補正值)	全塑性 モーメント	断面算定	長期	地震時	上下動	設計用	$M_L$	$M_E$	$M_V$	$M_D$	$M_D'$	$M_P$	$M_D'/M_P$	1,891	1,897	1,357	5,145	→ 4,919							$\Delta M = 226 \text{ kN}\cdot\text{m}$			1,000	-47	718	1,671	→ 1,897	4,680	0.41					$226 \text{ kN}\cdot\text{m}$			<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="4">曲げモーメント</th> <th rowspan="2">設計用曲げ モーメント (補正值)</th> <th rowspan="2">全塑性 モーメント</th> <th rowspan="2">断面算定</th> </tr> <tr> <th>長期</th> <th>地震時</th> <th>上下動</th> <th>設計用</th> </tr> <tr> <th><math>M_L</math></th> <th><math>M_E</math></th> <th><math>M_V</math></th> <th><math>M_D</math></th> <th><math>M_D'</math></th> <th><math>M_P</math></th> <th><math>M_D'/M_P</math></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1,891</td> <td>1,897</td> <td>1,357</td> <td>5,145</td> <td>→ 4,919</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td><math>\Delta M = 226 \text{ kN}\cdot\text{m}</math></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1,000</td> <td>-47</td> <td>1,753</td> <td>2,706</td> <td>→ 2,932</td> <td>4,680</td> <td>0.63</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td><math>226 \text{ kN}\cdot\text{m}</math></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	曲げモーメント				設計用曲げ モーメント (補正值)	全塑性 モーメント	断面算定	長期	地震時	上下動	設計用	$M_L$	$M_E$	$M_V$	$M_D$	$M_D'$	$M_P$	$M_D'/M_P$	1,891	1,897	1,357	5,145	→ 4,919							$\Delta M = 226 \text{ kN}\cdot\text{m}$			1,000	-47	1,753	2,706	→ 2,932	4,680	0.63					$226 \text{ kN}\cdot\text{m}$		
曲げモーメント				設計用曲げ モーメント (補正值)	全塑性 モーメント	断面算定																																																																																									
長期	地震時	上下動	設計用																																																																																												
$M_L$	$M_E$	$M_V$	$M_D$	$M_D'$	$M_P$	$M_D'/M_P$																																																																																									
1,891	1,897	1,357	5,145	→ 4,919																																																																																											
				$\Delta M = 226 \text{ kN}\cdot\text{m}$																																																																																											
1,000	-47	718	1,671	→ 1,897	4,680	0.41																																																																																									
				$226 \text{ kN}\cdot\text{m}$																																																																																											
曲げモーメント				設計用曲げ モーメント (補正值)	全塑性 モーメント	断面算定																																																																																									
長期	地震時	上下動	設計用																																																																																												
$M_L$	$M_E$	$M_V$	$M_D$	$M_D'$	$M_P$	$M_D'/M_P$																																																																																									
1,891	1,897	1,357	5,145	→ 4,919																																																																																											
				$\Delta M = 226 \text{ kN}\cdot\text{m}$																																																																																											
1,000	-47	1,753	2,706	→ 2,932	4,680	0.63																																																																																									
				$226 \text{ kN}\cdot\text{m}$																																																																																											
	図 7.4-15	(図中の式の数值) $M_D' = M_D + \Delta M = 1671 + 226 = 1897 \text{ kN}\cdot\text{m}$	(図中の式の数值) $M_D' = M_D + \Delta M = 2706 + 226 = 2932 \text{ kN}\cdot\text{m}$																																																																																												
482	下から 8行目	・・・ 第三号イに定めた暴風および第三四号イに・・・	・・・ 第三号イに定めた暴風および第四号イに・・・																																																																																												
	下から 7行目	三号ロに定めた暴風および第三号イに・・・	三号ロに定めた暴風および第四号イに・・・																																																																																												
491	下から 1行目	・・・、本建築物の特定天井の水平震度 <u>1.0G</u> を設定した。	・・・、本建築物の特定天井の水平震度 <u>1.0</u> を設定した。																																																																																												